大学はいま 研究室から

現代都市の居住課題克服へ

岐阜大教育学部社会科教育　久保　倫子助教*

「地理学」と聞いて、皆さんはどのような研究をイメージするでしょう？　地理学とは自然環境と人間とのかかわりを大きなスケールで理解しようとする学問であり、ロマンにあふれています。たとえば、自然環境と人間とのかかわりとは、アマゾンなどの壮大な自然環境の中でばかり感じられるものではありません。私たちの多くが住む「都市」こそ、その立地においては自然環境（特に地形）に大きな影響を受け、人間による環境改変の集大成かつ人間活動の中心地であり、最も身近かつ顕著に地理学を感じられる場所なのです。

私の研究は、「都市」における人間居住の地域構造の実態やその課題を明らかにするもので、より詳細には「都市地理学」という分類に含まれます。近年メディアでも取り上げられている「都心居住」や「都市の空き家問題」などを扱っています。

これらは、都市化が進む中で、郊外での開発が進められ郊外的な生活様式（自家用車の利用、戸建住宅の購入、長距離通勤など）が普及する段階から、都心部への再投資が進められたり、共働き世帯が増えたり、晩婚化・未婚化・就業の不安定化が進んだりという、新しい生活様式が求められる段階に移ってきたことを反映して引き起こされた風潮なのです。

都心部への人口集中と郊外や地方都市の衰退、現代都市が抱えるさまざまな都市居住問題の実態とそれを克服するための欧米都市における都市政策とを学び、より良い都市居住の実現を目指してみませんか。

* 2017年4月～ 准教授